

歴史学習において、自己有用感を高め、 深い学びを実現するための授業の工夫

ー スモールステップを意識した資料読解・協働学習を通してー

特別研修員 地理歴史 新井 悠子（高等学校教諭）

生徒の実態

- ・真面目に取り組む一方、思考力・判断力・表現力を用いる課題や、価値判断を迫る課題の取組に課題が見られる。
- ・協働学習において、役割を果たしたり、コミュニケーションを取ったりすることに苦手意識がある。



教師の願い

- ・社会的な見方・考え方を獲得し、学びを深めてほしい。
- ・他者と協働しながら自己有用感を高めてほしい。

実践事例 歴史総合C（2）「第一次世界大戦と大衆社会」（3）「経済危機と第二次世界大戦」

手立て1

スモールステップを意識した資料読解

段階的な学びで達成感をもたせながら、読解力・表現力を向上させる。

Step1 一つの資料を読み取り、単語穴埋め・選択による表現

この風刺画は、橋の真ん中に(アメリカ)の石が入っていないことで、橋は(強い・もろい)ということを表している。

Step2 一つの資料を読み取り、短文で表現

戦前、ドイツ帝国成立を宣言するドイツ皇帝の戴冠式

フランス人の気持ち

俺たちに勝つ。だから
さっさとフランスを占領せよ！

ドイツ人の気持ち

や。た。ー
ドイツ人が、きたぞ。

当時の人の
気持ちになって
考えてみよう

Step3 複数の資料を読み取り、抽象化して表現

以上のことから、国際連盟の問題点は、
・協調性がなく、
・加盟した国が自国の主張をなんとして
でもとおさそうとしている

と考えられる。

資料が示す
問題点を
まとめられたぞ！

Step4 根拠資料を選び、問いに対する自分の考えを表現

Goalの答え（資料に基づく自分の態度と、その理由）

資料A、Bから、ドイツ人のことをよく考えてくれていることと、困っているドイツ人には寄り添おうとしてくれていることが分かる。ただ、資料B、Cをよく読むと「殺されてしまうかもしれない」という恐怖を感じた。抵抗すれば殺され、かと言って全面的な肯定もしたくない。自分ができることは何もなさそうなので「何もしない」を選んだ。

手立て2

スモールステップを意識した協働学習

段階的な協働学習形態で安心感をもたせながら、自分の役割や貢献を実感させる。生徒同士の学び合いを通して、多面的・多角的な見方・考え方を獲得させる。

Step1 ペアワーク

ここから抜き
出して言い換
えるのはどう？

うーん、少し言葉
を変えてみない？

うん、変えた方が
分かりやすいね！

私の考えを採用
してもらえて
うれしいな

Step2 グループワーク

こういう表現は
どうですか？

ぼくが
入力するよ

いいね！
その言葉を使
って文章で
まとめると...

Step3 全体発表

そういう見方も
あるんだな

班で話し合っ
た内容は...

班を代表して
発表できた！

生徒の振り返り

資料読解について

三つの資料から、戦勝国の中でも特にヨーロッパ諸国が主導していることが分かる。彼らにより、負けた国や肌の色が違う国が下に見られていることは、現代にも通じる問題点だと思う。

協働学習について

人の意見を聞くと、自分にはなかった考え方
や捉え方があっておもしろかったです。他人と
協力し、考えを表現できるようになりました。
グループに貢献できたと思います。

学びの深まりが見られる部分

自己有用感の高まりが見られる部分

成果（○）と課題（●）

- 資料読解の精度と表現力が向上した。歴史的事象について複数の視点から捉えたり、現代とのつながりを考えられたりするようになり、**学びの深まり**が見られた。
- アンケートでは「グループワークを通して自分の考えに自信をもち、発言できるようになった」など、前向きな回答が見られ、授業中の様子からも、協働学習への抵抗感の低下と**自己有用感の高まり**が見られた。
- 資料読解や協働学習を得意とする生徒に対し、より学習意欲を喚起しながら学びを深めていくため、複数のステップを準備するなど、ステップの構成や設定について再考する必要がある。